

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援ほっと		
○保護者評価実施期間	2025年 12月 1日		2025年 12月 21日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	29	(回答者数) 26
○従業者評価実施期間	2025年 12月 1日		2025年 12月 21日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5	(回答者数) 3
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 1月 5日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	幼稚園や保育園への就園に向けた療育	幼稚園や保育園へ伺い、園生活での困りごとや療育現場に求めていることなどを伺い、実践していること。 また、支援方針を職員に周知することで、同じ目線で療育を行うことができています。 採用を保育士のみならず、保育士目線大切にしている。	尼崎市全域の幼稚園・保育園と連携できているわけではないので、範囲を拡大させて行ければと思う。そのためには信頼して頂ける事業所であると認めて頂けるように支援を行うとともに、研修等を通して質の向上を図っていく。
2	身辺自立の確立	定時排泄を行い、トイレへ行くことの習慣が身についてきた。 職員間で情報共有及び保護者様と連携することでトイレ(パンツ移行)が増えた。他にも着替え、身支度、食事等、身の回りのことを子どもたち自身が行うことで、できることが増えている。	身辺自立は事業所と家庭で取り組み、成果が出ると思っています。事業所での取り組みを保護者様に伝える機会を設定したり実際に取り組んでいる様子を見て頂いたりして、参考にもらえるように支援できる環境を作る。
3	子どもたちが安心して楽しく過ごせている	楽しい場所の提供だけでなく、良いこと・悪いこと、感謝の気持ち、「貸して」「いいよ」等のやり取りを伝える中で、子どもたち自身が自ら発することで自信につながり、楽しんで頂いているのだと思う。	どのように過ごしているか分からないとご意見を頂いているので、改善して行ければと思う。現場の負担等を鑑みながらできる範囲で調整して行こうと思います。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	専門的な支援を行うことはできない	身体の使い方や動作、発語など保育的目線での支援は可能だが、PT・OT・STといった専門職の配置がないため、対応できる療育に限られている。	目指す療育の姿が幼稚園・保育園への就園を目標としているため、ご要望に添えられないと思っている。他事業所さんと連携したり必要に応じて専門事業を展開するなどしたりして、ご要望に答えられるようにしていきたい。
2	保護者への連絡・通達がうまくいっていない	お手紙やお知らせなどをLINEでお送りしているが、紙での配布を希望しているご家庭もある。また、職員間で共有していても伝え忘れ等もあるため、送迎時などで伝え忘れがないような工夫を行う必要がある。	お手紙やお知らせの発信をPDFだけではなく、紙でも行うようにする。また、内容を読んで頂いた際に返信(見ました)サインを送って頂くことで、内容確認を行うことができるのではないかと考える。
3	十分な活動スペースが取れない	実際に想定していた以上にご利用いただけていること、子どもたちの年齢が上がったこと、活動が大きくなったことなどがあげられる。	管理会社に連絡し、条件付きで部屋を貸してくれるとのことだったが、条件に合う部屋が空いていない。 現状、引っ越しが一番の解決策だが、すぐには難しい。